

News Release

株式会社山陰合同銀行

〒690-0062 島根県松江市魚町 10
TEL.0852-55-1000
<https://www.gogin.co.jp>

2022 年 5 月 13 日

森林×脱炭素チャレンジ 2022「優秀賞（林野庁長官賞）」の受賞について ～15 年間に及ぶ「森林保全活動」を評価～

山陰合同銀行では、林野庁が新たに創設した「森林×脱炭素チャレンジ 2022」において、当行の取り組む森林保全活動が優秀賞（林野庁長官賞）を受賞しましたのでお知らせします。

この顕彰制度は、森林が有する二酸化炭素吸収機能に注目が集まる中、「企業等が自らまたは支援をして行ったカーボンニュートラルの実現に向けた森林整備を顕彰する」もので、企業等の参画による森林整備の認知度向上および全国的な拡大を図る目的から創設されました。

当行の森林保全活動は、山陰の荒廃する山林の状況を憂い、CSR の一環として 2006 年から活動を開始しました。役職員による実践的な森林保全活動や地域のボランティア団体等との交流を通じて、森づくりの輪を広げる活動を 15 年間続けてきましたが、そうした長年の取り組みが今回評価されたものです。

第 1 回目となる今回は、全国から 55 件の応募があり、グランプリ（農林水産大臣賞）1 件、優秀賞（林野庁長官賞）9 件が選定されましたが、金融機関の受賞は当行が初となります。

地域に根差す金融機関として、緑豊かな山陰の自然を次世代に繋ぎ、地域課題の解決と持続可能な地域社会の実現に貢献すべく、今後も森林保全活動に取り組んでまいります。

記

1. 「森林×脱炭素チャレンジ 2022」募集内容

項目	当行の取り組み
期間中に整備した森林に係る二酸化炭素吸収量	41t-CO2/年
期間中の森林整備に係る具体的な取り組み	・ 当行役職員が実際に植樹や下草刈り等を行う「ごうぎん希望の森」の活動 ・ 地域の活動団体との連携・ネットワーク作り ・ 里山再生への取り組み 等

※当行の取り組み内容の詳細は別添資料をご参照下さい。

2. 表彰式

林野庁において 6 月中旬に表彰式を実施予定。日時等の詳細は決定次第林野庁より公表。

※林野庁 <https://www.rinya.maff.go.jp/j/press/kikaku/220513.html>



当行の森林保全活動の取り組み



林野庁グリーンパートナー

以上



「森林×脱炭素チャレンジ 2022」応募申請内容

山陰合同銀行

1. 森林整備の詳細

番号	森林の所在地	整備年	整備面積 (ha)	整備内容	樹種	算定に用いた林齢	CO ₂ 吸収量 (t-CO ₂ /年)
1	島根県松江市西忌部町字 五反田 2131 番外 3 (個人)	R2 (R3)	2	植栽・ <u>下刈</u> ・ 枝打ち・ <u>除伐</u> ・ 間伐	ケヤキ コナラ ヤマサクラ ヒノキ他	9 年 15 年 (R2・R3)	22
2	島根県大田市大森町字 金鑄場横手下タ北向イ 1597番2外1 (大田市)	R2 (R3)	1	植栽・ <u>下刈</u> ・ 枝打ち・除伐・ 間伐	マツ クヌギ ヤマサクラ	6 年 8 年 (R2・R3)	6
3	島根県浜田市旭町今市 2237 番 1 外 9 (個人)	R2 (R3)	1	<u>植栽</u> ・ <u>下刈</u> ・ 枝打ち・除伐・ 間伐	クヌギ	4 年 5 年 (R2・R3)	3
4	上記 3 会場一括で 認証制度算定	(R2) R3	1	植栽・ <u>下刈</u> ・ 枝打ち・除伐・ 間伐	マツ ヤマサクラ クヌギ	3 年 4 年、8 年 (R2・R3)	10
計							41

2. 森林整備に係る取組内容

令和2年及び令和3年の間に取り組んだ内容						
「伐って、使って、植える」森林の循環利用への貢献	1. 当行の森林保全活動 ・当行の「森林保全活動」は、山陰両県の県土の約3分の2を占める山林が荒廃する状況を憂い、平成18年に地域に根差す地域金融機関のCSR活動の一環として開始した取り組みである。 ・この活動は、山陰両県の森林保全施策「しまね企業参加の森づくり事業」並びに「とっとり共生の森育成支援事業」の第一号企業として両県の協力の下、開始した。 ・「ごうぎん希望の森」は、当行が行う森林保全活動の中心的事業であり、「ふるさとの自然を守る」「一人ひとりが、できることをできる範囲で継続する」という理念のもと、役職員が“自ら汗を流す”実践活動を通じて、森林を育み、次世代に繋げていく取り組みである。 2. 「ごうぎん希望の森」 ・当行では平成18年度より、役職員やその家族がボランティアで植樹・下草刈り等を実際に行う、「ごうぎん希望の森」の活動を年2回の頻度で実施している。 ・令和3年度現在の活動地は以下の6会場。 ⇒島根県3会場…千本ダムの里【番号1】、石見銀山【番号2】、旭【番号3】 ⇒鳥取県3会場…智頭、三朝、大山 ・これまでの活動実績は、15年間で7会場（53.7ha）、101回の活動を行い、延9,766人の参加と17,660本の植樹を行った。 ・「ごうぎん希望の森」の島根県3会場では、「島根CO2吸収認証制度」を利用し、15年間で合計190t-CO₂の認証を受けている。					
		名称 (所在地)	森林 面積	植樹 本数	活動期間 (年月)	活動 回数
	島根県	【番号1】 千本ダムの里	2.0ha	3,800本	H18.11～R3.11	23回
		【番号2】 石見銀山	15.1ha	5,250本	H18.11～R3.11 「三瓶」に移行	23回
		【番号3】 旭	4.6ha	1,900本	H29.5～R4.5	7回
		三瓶	令和4年度から活動開始			
	鳥取県	智頭	2.8ha	5,500本	H18.8～R3.8 「鳥取砂丘」に移行	18回
		三朝	2.0ha	150本	H28.10～R8.10	8回
		大山	1.1ha	300本	H29.7～R4.7	6回
		奥大山	26.1ha	760本	H18.8～H28.8 「大山」に移行	16回
		鳥取砂丘	令和4年度から活動開始			
	合計		53.7ha	17,660本		101回
						9,766人

◎「ごうぎん希望の森」活動の様子



◎「ごうぎん希望の森」活動マップ



(令和3年度・全6会場)

3. 情報発信活動

- ・「ごうぎん希望の森」の活動状況については、活動レポート“もりもり通信”を年2回発行し、ホームページへの掲載、行政機関への配布、銀行窓口設置による来店客への縦覧等を行い、情報発信に力を入れている。
- ・また、毎年「イメージポスター」を調製し、銀行店内やイベント時に掲示するなど、森林保全活動のPRや啓発にも努めている。



「伐って、使って、植える」森林の循環利用への貢献

1. 地域の活動団体との連携・ネットワークづくり

- ・山陰両県の森林保全活動に関わるNPO法人、ボランティア団体の情報交換・交流促進を図るため、平成18年に「森林を守ろう！山陰ネットワーク会議」を立ち上げ、当行が事務局を務めている。
- ・令和3年度現在の会員数は、山陰両県計50団体（鳥取県27団体、島根県23団体）。
- ・また、会員が開催する研修会・交流事業等への助成制度を設け、各団体の活動活性化に向けたサポートを行っている。
- ・平成19年より、山陰両県で毎年開催される「しまね森の誕生日」、「鳥取県植樹祭」の各イベントには、会員と事務局でブース出店を行い、木工体験・竹細工の製作販売コーナー等でイベントの盛り上げに協力している。尚、ブース出店での売上代金は、その全額を両県緑化推進委員会に寄附している（累計55万円）。
- ・平成30年6月からは、当行の行員と「森林を守ろう！山陰ネットワーク会議」会員との交流機会の拡大を図るため、「フレンドシップ店制度」を新設し、銀行店舗において、各会員の活動の広報協力を行う他、営業店行員がイベントに参加するなど、会員活動の活性化、交流促進に繋げている。



2. 森林教室の開催、他団体との協働

- ・「ごうぎん希望の森」では、実践活動後に専門家や行政の方を講師に「森林教室」を開催している。15年間で延73回実施し、森林保全の意義や重要性の理解促進に向け、学びの機会を設けるようにしている。
- ・また、下草刈り等の作業の他、椎茸の植菌、木製ベンチの設置等もメニューに加え、循環型林業の学習・体験に繋がる活動を行っている。尚、生育した椎茸は、近隣のこども園の園児が収穫を行うなど、幼児が森に親しむ試みも実施している。
- ・この他、地域のボランティア団体や他金融機関行員からの参加者も受け入れており、他団体との協働も意識している。

3. 日本の森を守る地方銀行有志の会

- ・平成20年7月、当行を含む地方銀行8行で「日本の森を守る地方銀行有志の会」を設立。森林保全活動のノウハウや情報共有を通じて、森林・環境保全の輪を全国に広げる活動を開始する。
- ・当行は発足以来事務局を担い、山陰発の銀行による森林保全活動を、全国運動に発展させた。結果、全国の地方銀行64行が加盟するに至り、そのうち49行が、全国各地で森林保全活動を実施している。
- ・「SDGs」の世界的な進展を背景に、近年地域金融機関においても、持続可能な社会の実現に向け、地域課題への主体的な参画がより強く求められるようになっている。そのような時流を受けて令和3年2月、当会の果たしてきた役割を「全国地方銀行協会・広報SDGs部会」が引き継ぎ、当会は発展的に解散した。



日本の森を守る
地方銀行有志の会

4. 里山再生への取り組み

- ・「ごうぎん希望の森 “千本ダムの里”」【番号 1】は、松江市の貴重な水源「千本ダム」の上流に位置する里山である。
- ・平成 18 年 11 月より活動を開始し、竹林に覆われていた水源地の里山再生に向け、地権者、行政機関、森林組合の協力を得ながら、竹の伐採から作業に着手し、広葉樹の植樹から下草刈り等、段階を踏みながら整備を進めた。
- ・令和 3 年 11 月、作業開始以来 15 年の歳月を掛けて“千本ダムの里”は見違えるほどに蘇り、当地での活動は完了するに至った。

【竹害が進行した里山（平成 18 年）】



【伐採作業の様子】



【竹伐採後の植樹前の里山】



【里山再生後の現在の様子（令和 3 年）】



1. 地域の自然環境の維持・保全

- ・「ごうぎん希望の森」の活動では、“石見銀山”【番号2】や“大山”など、山陰両県内の世界遺産や国立公園近隣地を活動地を選定し、当地を代表する自然環境や行楽地の景観維持・保全に積極的に貢献することとしている。
- ・また、各種広報物を用いた情報発信に努め、多くの県民の方々に環境維持・保全の大切さを広く伝える活動を継続している。

2. レクリエーションや休養等の活動の場の提供

- ・「ごうぎん希望の森“三朝”」の会場は、鳥取県を代表する温泉地「三朝温泉」の玄関口に位置し、ファミリー層や高齢者が憩う町営広場やグランドゴルフコートが隣接している。
- ・また、全国で生息域が狭まっている「ゲンジボタル」の生息地として、森林が育む綺麗な水が生態系維持に繋がる場所でもある。
- ・活動を開始した平成28年より、三朝町の町花に指定されるシャクナゲを植樹し、町民の憩いの場としての景観の整備に繋げると共に、ホタル繁殖地の草刈りや水路の清掃等を継続して行っている。
- ・現在三朝町では、「国宝・三徳山投入堂」と「三朝温泉」一帯が日本遺産に認定されており、本活動においても、山林の遊歩道整備を進めるなど、自然や景色を楽しむ、歴史と癒しを感じられる地域のレクリエーション機能の拡充に努めている。

3. 国立公園オフィシャルパートナーシップ

- ・令和3年3月、当行は環境省との間で、「国立公園オフィシャルパートナーシップ」を締結した。
- ・国立公園内での実践活動を通じて、環境・森林保全の重要性はもとより、国立公園の魅力発信を積極的に行う方針である。
- ・令和4年度からは、国立公園内の“鳥取砂丘”“三瓶”の2会場において、「ごうぎん希望の森」の新たな活動を開始することが決定している。



4. 全国植樹祭への参画

- ・令和3年5月、「第71回全国植樹祭しまね」のプレイベントとして、ヤマザクラ20本、イロハモミジ20本、クヌギ40本の植樹を行い、全国植樹祭の周知と機運醸成に協力した。【番号1、2、3】
- ・また、その他の「全国植樹祭・県民参加イベント」にも役職員・家族54名が参加し、植樹等を行った。